

共同研究成果報告書

作成日 平成22年 5月20日

研究課題名	アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究					
所属研究部局	アーカイブズ研究系		ふりがな	おおとも かずお		
・職 名	・教授		研究代表者氏名	大 友 一 雄		
研 究 形 態	1. 基幹研究 2. 共同研究 (3.) プロジェクト研究 4. その他 ()					
研究の位置づけ	(1.) 中期目標・中期計画に記載 2. その他 ()					
研 究 期 間	平成16年度～平成21年度 6年計画の第6年次					
研 究 経 費	年 度	研究経費	経 費 内 訳 (単位:円)			
			物品費	旅 費	謝金等	その他
	平成16年度	2,967,082	399,672	92,980	738,150	1,736,280
	平成17年度	3,185,000	1,675,840	101,160	409,450	998,550
	平成18年度	954,839	29,799	281,040	644,000	0
	平成19年度	973,098	442,638	120,060	410,400	0
	平成20年度	901,960	219,870	263,360	377,150	41,580
	平成21年度	1,155,231	348,108	262,540	154,613	389,970
	総 計	10,137,210	3,115,927	1,121,140	2,733,763	3,166,380

研究組織				
氏 名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役 割 分 担	エフオー ト (%)
(研究代表者)				
大友 一雄	アーカイブズ研究系・教授	アーカイブズ学	総括・史料情報の構造分析	20
(研究分担者)				
坂口 貴弘	アーカイブズ研究系・機関研究員	アーカイブズ学	EAD 化・システム開発研究	10
藤吉 圭二	高野山大学・文学部・准教授	情報資源学	史料情報の構造分析	5
前川 佳遠理	アーカイブズ研究系・助教	アーカイブズ学	ネットワーク研究	20
青山 英幸	駿河台大学・大学院現代情報文学研究科・非常勤講師	アーカイブズ学	史料情報の構造分析	5
安倍 尚紀	東京福祉大学・教育学部・専任講師	情報学	EAD 化・システム開発研究	5
五島 敏芳	京都大学・総合博物館・講師	アーカイブズ学	ネットワーク研究	10
戸森 麻衣子	元 国文学研究資料館・アーカイブズ研究系・機関研究員	アーカイブズ学	史料情報の構造分析	5
原 正一郎	京都大学・地域研究統合情報センター・教授	情報学	EAD 化・システム開発研究	5
丸島 和洋	中央大学・文学部・兼任講師	アーカイブズ学	EAD 化・システム開発研究	5
村越 一哲	駿河台大学・メディア情報学部・教授	文化情報学	EAD 化・システム開発研究	5
森本 祥子	学習院大学・大学院人文科学研究科・助教	情報資料学	史料情報の構造分析	10
安澤 秀一	国文学研究資料館・名誉教授	アーカイブズ学	EAD 化・システム開発研究	5
安永 尚志	国文学研究資料館・名誉教授	情報学	EAD 化・システム開発研究	5
(研究補助者)				
榎本 博	アーカイブズ研究系・リサーチアシスタント			
合計 15 名				

【概要（背景と目的）】

- ・「背景」と「目的」は、概要の中に含めて記入している場合は、特立して記す必要はありません。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。
- ・「全体の研究成果」等他の記入欄と同内容のことを書かざるを得ない場合でも、他の記入欄と数行にわたって同一内容（成果出版物の目次を記す等）になるような記入はしないで下さい。

現代社会においてアーカイブズは、文化遺産であると同時に個人の権利や組織の創造的な活動を支える存在として大いに注目され、世界規模でさまざまな保存と公開に関する取り組みが本格化しつつある。高度情報化社会ともいわれるように、コンピュータやインターネットが爆発的な広がりと深まりを見せ、現代の社会的なシステムを考える上でもその活用が欠かせぬ状況にあるなかで、アーカイブズの資源化には、これまで以上に理論と技術に関する研究と、それに基づく実践が求められる。

本研究では、以上のような認識のもとに、アーカイブズ情報の資源化の方法、情報の提供とは如何にあるべきか、国際動向を踏まえながら、実験的な取り組みを通じて提案することを目的に、次のような課題を設定した。すなわち①記録史料群の構造化に関する研究、②EAD規格による情報の組織化のための研究、③情報提供とネットワークシステムに関する研究、これらの取り組みを最終的には④アーカイブズ全体の電算システムとの関わりで位置づけるための研究である。

方法的には、実際に史料群を取り上げて、システム設計・開発や技術的な検証、史料群情報などに関するデータ構築を進め、その成果は公開の研究集会・ワークショップや研究書の刊行、データベースの公開などを通じて行うことにした。

[全体の研究成果]

- ・この欄に、全ての出版物を並べて記入しないようにして下さい。出版物の一部分を記入することは構いませんが、成果物の一覧は、[成果出版物・論文等]の欄に記入して下さい。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。

設定した目的にしたがい予定した研究成果を得ることができた。具体的には論文集『アーカイブズ情報の共有化に向けて』（国文学研究資料館アーカイブズ研究系編、岩田書院、2010年3月）を公刊した。第1部 アーカイブズ情報の共有化と情報社会（論文5本）、第2部 アーカイブズ情報の概念と構造（論文3本）、第3部 アーカイブズ情報共有化の実践技法（論文3本）という大きな編成のもとに、アーカイブズの資源化記述と資源化技術など、最先端の研究成果を収録することができた。

また、本プロジェクトの大きな特徴は、アーカイブズの資源化の考え方と、実践方法に関わりワークショップなどを頻繁に開催したことである。アーカイブズ情報の EAD/XML 化について、具体的なデータを示しながら、時には参加者が持参されたデータを利用して一緒に考える方法を採用した。また、その開催にあたっては、「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基盤構築に向けての研究」科研（代表者高埜利彦）、えずけん(デジタル「絵図」研究会、世話人藤吉圭二)、総合研究大学院大学葉山高等研究センター「大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ」プロジェクト、「駿河台大学におけるミュージアム＝アーカイブズの形成と教育・公開利用を促進するための基礎的研究」プロジェクトなどの研究グループや研究機関と共催することにより、人文・理工といった垣根を越えて学際的な連携・交流を実現できたといえる。

また、本研究に関連して様々なシステム開発や情報処理のためのツールも開発され、それらを利用してデータベースの構築・公開を進めた。本研究は、こうした拮がりのなかで進んできた点に大きな特徴がある。

なお、今回の史料情報の資源化に関する取り組みは、全国の史料収蔵諸機関との永年の協力関係によってはじめて実行可能になったといえる。現在、当館からは「史料所在情報・検索システム」、「史料情報共有化データベース」が史料情報に関わるデータベースとして公開されているが、今回の研究プロジェクトでは、とくに後者のシステムに関わり、多くの機関の協力を得た。

また、館の事業にも関わるが、情報資源共有化研究などの成果を踏まえて、『史料目録』12冊を刊行した。

6年間にわたる研究活動とその成果については報告書『平成16年度～平成21年度研究成果報告書』（2010年2月刊行）に示した。

【成果出版物・論文等】

- ・年次順に分けずに、【出版物】、【論文】、【その他（学会発表）（公開データベース）等】の区分で記入して下さい。記入内容は、出版物の場合は、書名（平成□□年□月、□□書房、全□□□頁）、内容（執筆者名、論文名）とし、論文の場合は、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、最初と最後の頁、発表年月、査読の有無を原則とします。
- ・論文名は「 」に、書名・雑誌名は『 』に入れるのを原則とします。
- ・論文名や学会発表、データベース名は、一件ごとに「・」や①②③…を使って区別しやすいように記入して下さい。
- ・データベースは公開されているもののみ記載して下さい。

【出版物】

①『アーカイブズ情報の共有化に向けて』（岩田書院、2010年2月、全286頁）

第1部 アーカイブズ情報の共有化と情報社会

- ・第1章 安倍尚紀「社会学によるアーカイブズ論のための基礎的考察」
- ・第2章 藤吉圭二「政府のアカウンタビリティとアーカイブズ」
- ・第3章 坂口貴弘「諸外国におけるアーカイブズ情報共有化の現状とその手法」
- ・第4章 大友一雄「史料保存機関における情報資源化の取り組みと課題」
- ・第5章 森本祥子「国立国語研究所における研究資料の保存と活用について」

第2部 アーカイブズ情報の概念と構造

- ・第6章 青山英幸「国際標準（ISAD(G)2nd / ISAAR(CPF) 2nd / ISDF）による組織構造体と機能構造体としてのフォンドの統一的把握」
- ・第7章 青山英幸「フォンドとシリーズの関係について」
- ・第8章 吉田千絵「レコード・マネジメントにおける国際標準の適用」

第3部 アーカイブズ情報共有化の実践技法

- ・第9章 五島敏芳「EADの概要と日本における動向」
- ・第10章 丸島和洋「EAD/XMLのウェブ上での表示とXSL」
- ・第11章 村越一哲「表計算ソフトを利用した史料目録EAD化のためのツール」

②『平成16年度～平成21年度研究成果報告書』（2010年2月、全252頁）

当プロジェクト研究活動とその成果を示した報告書を出版。

【論文】

- ・大友一雄「近世の文字社会と身分序列 ―秋田藩を事例に―」、『歴史評論』、653、2004年、pp.2-15
- ・大友一雄「幕府奏者番にみる江戸時代の情報管理」、『史料館研究紀要』、35、2004年、pp.49-92
- ・五島敏芳「日本のアーカイブズ管理におけるEAD・EAC：―XMLによる実践の可能性―」、『情報知識学会誌』、14(3)、2004年、pp.35-43
- ・五島敏芳「アーカイブズにおけるXML化：組織体の知識管理の背景として」、『情報知識学会誌』、14(4)、2004年、pp.64-71
- ・五島敏芳「国文学研究資料館史料館」、デジタルアーカイブ推進協議会『デジタルアーカイブ白書2004年』、トランスアート、2004年、pp.74-75
- ・山陰加春夫、藤吉圭二「高野山古地図を利用した追記可能なデジタル教材の作成」、『論文誌情報教育方法研究』、7(1)、2004年、pp.41-45
- ・五島敏芳、丸島和洋、戸森麻衣子、村越一哲、岩熊史朗「アーカイブズの電子的検索手段の構築・

- 表現」、『記録と史料』、15、2005 年、pp.25-40
- ・五島敏芳「EAD による電子的検索手段のデータ記載形式：いくつかの EAD 最良実践ガイドラインから」、『情報知識学会誌』、15(2)、2005 年、pp.25-32
 - ・Kaori Maekawa, 'Military Mobilization: Hei-ho during the Japanese Occupation in Indonesia 1942-45', Paul H. Kratoska(ed.), "Asian Labor in the Wartime Japanese Empire", New York: M.E.Sharpe (hardcover)/Singapore University Press(softcover), 2005, pp.179-196
 - ・ジョーコ・ウトモ、前川佳遠理抄訳「過去、現在、そして未来の架け橋：現代アジアにおけるアーカイブズの役割」、『アーカイブズ学研究』、3、2005 年、pp.2-10
 - ・前川佳遠理「オランダ国立公文書館組織と中間書庫」、『アーカイブズ』、20、2005 年、pp. 27-34
 - ・安澤秀一「ドキュメンテーション作業の実践から得られた事柄：最近 2 年の経験から」、『アート・ドキュメンテーション通信』、65、2005 年、pp.2-6
 - ・安澤秀一「大学における資料保存施設の必要性」、『矚誌』、創刊号、2005 年、pp.9-21
 - ・Abe, N., 'Study on Summarized Captioning via Computer Assistance', "Interdisciplinary Information Science", Vol.13, 2006, pp.1-10
 - ・大友一雄「近世中期における幕府勤役と師範 一新役への知識の継承をめぐる一」、『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』、2、2006 年、pp.95-109
 - ・坂口貴弘「アーカイブズ情報のためのメタデータ標準をめぐる動向」、『アーカイブズ・ニューズレター』、5、2006 年、pp.10-11
 - ・藤吉圭二「電子ネットワーク時代の組織記録 ーオーストラリア・ヴィクトリア州の VERS を事例として」、『高野山大学論叢』、41、2006 年、pp.1-21
 - ・Kaori Maekawa, 'Forgotten soldiers in the Japanese Army: Asian POWs in Papua New Guinea', Yukio Toyoda and Hank Nelson (eds.), "The Pacific War in Papua New Guinea: Memories and Realities", Rikkyo University Centre for Asian Area Studies, 2006, pp.362-376
 - ・前川佳遠理「オーラル・ヒストリーの実践 ーインドネシア兵補をめぐる語りと歴史体験」、『歴史学研究』、813、2006 年、pp.8-16
 - ・村越一哲「サード・エイジ論とは何か ー歴史人口学者ラスレットの実践」、『環』、26、2006 年、pp.175-181
 - ・森本祥子「EAD を用いた資料記述システムの開発について ー国立国語研究所の事例」、『アーカイブズ学研究』、4、2006 年、pp.92-102
 - ・安澤秀一「熊本県医師家塾調明治 6 年による医療教育と使用教科書(35 事例)」、『情報知識学会誌』、16(2)、2006 年、pp.81-86
 - ・安澤秀一「藩財政」、大石学編『近世藩制・藩校大辞典』、吉川弘文館、2006 年、pp.151-157
 - ・国際アーカイブズ評議会建築記録部会編、安澤秀一訳『建築記録アーカイブズ管理入門』、書肆ノワール、美学出版(発売)、2006 年、293p
 - ・Gotoh, H., Abe, N., Takaiwa, Y., Namba, C., Matsuoka, K., Kimura, K., Hanaoka, S., Obayashi, H., Fujita, J., 'A trial to establish database by the use of EAD', "Institute for Fusion Science, April 2006-March 2007", 2007, pp.408
 - ・五島敏芳、安倍尚紀「基盤機関アーカイブズ共有化の現状と今後の課題」、『共同利用機関の歴

- 史とアーカイブズ 2006 年』、2007 年、pp.5-16
- ・五島敏芳「真の<デジタル>アーカイブ構築への挑戦 ―資料目録電子化の現場から」、『歴博』、140、2007 年
 - ・五島敏芳「記録史料管理におけるデータベース構築 ―情報共有の技術的側面をふまえた協業の提案」、『東アジア近代史』、10、2007 年、pp.128-142
 - ・五島敏芳「アーカイブズ情報の電子化・保存と共有化の動向」、『情報知識学会誌』、17(4)、2007 年、pp.217-224
 - ・五島敏芳「EAD を実装したアジア歴史資料センター新情報システムによせて」、『アーカイブズ』、27、2007 年、pp. 57-59
 - ・坂口貴弘「米国におけるアーカイブズ編成・記述の動向」、『アーカイブズ・ニューズレター』、7、2007 年、pp.11-12
 - ・村越一哲「記録史料記述の標準化を促進するための提案」、『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』、3、2007 年、pp.61-73
 - ・東日本部落解放研究所編（安澤秀一）『群馬県被差別部落史料 ―小頭三郎右衛門家文書』、岩田書院、2007 年
 - ・五島敏芳「日本におけるアーカイブズのオンライン総合目録構築にむけて」、『記録と史料』、(18)、2008 年、pp.1-17
 - ・Namba, C., Gotoh, H., Abe, N., et al., 'A Trial to Establish an Archival Finding Aid Utilizing the Encoded Archival Description', "Annual Report of National Institute for Fusion Science, April 2007-March 2008", 2008, pp.398
 - ・坂口貴弘「アーカイブズ情報の共有化はどうすれば進展するのか：国際調査の結果から」、『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』、4、2008 年、pp.21-38
 - ・Kaori Maekawa, 'Japanese guards in film and memory: White Skin, Yellow Commander', Kevin Blackburn and Karl Hack (eds.), "Forgotten Captives in Japanese Occupied Asia, Routledge", 2008, pp.171-192
 - ・安澤秀一「座談会 ―小頭三郎右衛門家文書の刊行をめぐって」、『明日を拓く』、72、東日本部落解放研究所、2008 年
 - ・Abe, N., 'Questioning Omnipotence in the Information Society', "Proceedings of the Asian Conference of Education 2009", 2009, pp.321-329
 - ・坂口貴弘「北米におけるアーカイブズ記述規則の特性：図書館界の目録規則との比較をもとに」、『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』、5、2009 年、pp.119-136
 - ・藤吉圭二「記録管理を支えるもの ―草創期のオーストラリア・ヴィクトリア州を事例として」、『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』、5、2009 年、pp.23-34

【史料目録】

共同研究の成果を踏まえて刊行した史料目録には、次のものがある。

『史料目録』第 79 集尾張国海西郡鰐浦村木下家文書目録（2005 年 3 月、担当者：大友一雄）、
 第 80 集信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書目録（その 2）（2005 年 3 月、担当者：山崎圭）、
 第 81 集信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書目録（その 3）（2005 年 3 月、担当者：青木

睦)、第 82 集出羽国村山郡山家村山口家文書目録(その 2) (2006 年 3 月、担当者: 戸森麻衣子)、第 83 集尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書(その 3) (2007 年 3 月、担当者: 渡辺浩一)、第 84 集信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書目録(その 4・完) (2007 年 4 月、担当者: 青木睦)、第 85 集岡山・広島・鳥取県下市町村役場引継文書目録(2007 年 12 月、担当者: 加藤聖文)、第 86 集信濃国松代真田家文書目録(その 7) (2008 年 3 月、担当者: 安藤正人)、第 87 集信濃国松代真田家文書目録(その 8) (2008 年 3 月、担当者: 前川佳遠理)、第 88 集信濃国松代真田家文書目録(その 9) (2009 年 3 月、担当者: 高橋実)、第 89 集信濃国松代真田家文書目録(その 10) (2009 年 3 月、担当者: 山田哲好)、第 90 集信濃国松代真田家文書目録(その 11) (2010 年 3 月、担当者: 高橋実)。

[展示・シンポジウム]

(展示)

タイトル、会期(期間)、会場、入場者概数

(シンポジウム・講演会)

タイトル、期日、会場、参加人数概数、個別発表者名・講演者名、個別発表・講演タイトル

展示に付随した講演などは、頭に「*」を付して展示の項に註記しても構いません。

(公開研究会)

公開研究集会「日本のアーカイブズの電子的検索手段のために：身近な道具と XML によるデファクト国際規格 EAD 検索手段の実現」

期日 平成 17 年 1 月 24 日

会場 国文学研究資料館

共催 科研基盤研究(A)「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基礎構築にむけての研究」(研究代表者：高埜利彦)

「日本における EAD 検索手段構築のためのデータ記載形式：EAD 実践ガイドをもとに」(五島敏芳(国文学研究資料館アーカイブズ研究系助手)・戸森麻衣子(同館非常勤研究員))、「元号を含む日付の西暦変換：Microsoft Excel のアドイン関数の開発」(岩熊史朗(駿河台大学文化情報学部教授))、「VBA を利用した史料目録 EAD 化のためのツール開発」(村越一哲(国文学研究資料館アーカイブズ研究系客員助教授・駿河台大学文化情報学部助教授))、「EAD/XML データの web 上での表現：XSLT スタイルシートと PHP の利用から」(丸島和洋(国文学研究資料館アーカイブズ研究系リサーチアシスタント))、「パネルディスカッション」(パネラー：報告者、藤吉圭二(高野山大学文学部助教授))

(公開研究会)

公開研究集会「古文書目録データの電子化—EAD/XML について」

期日 平成 17 年 8 月 8 日～8 月 10 日

会場 高野山大学

共催 えずけん(デジタル「絵図」研究会)、科学研究費補助金・基盤研究(A)(1)「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基礎構築にむけての研究」(研究代表者：高埜利彦、平成 15-18 年度) メタデータ研究班

8 月 8 日

「レクチャー：記録史料記述 Archival Description の基礎知識と記録史料の目録」(五島敏芳(国文学研究資料館アーカイブズ研究系助手))、「レクチャー：日本の記録史料目録への EAD/XML の適用例の紹介」(丸島和洋(慶應義塾大学文学部非常勤講師))

8 月 9 日

「レクチャー：Microsoft Excel を用いた目録データ EAD/XML 化ツールの紹介」(村越一哲(国文学研究資料館アーカイブズ研究系客員教授・駿河台大学文化情報学部教授))、「実習：Microsoft Access97 版 EAD/XML 化のツールを利用した実習」

8 月 10 日

「実習：EAD/XML 化のツールを利用した実習」

(公開研究会)

公開研究集会「戦後の記録史料保存と現在ーアジアの記録史料保存の歩みのなかで考えるー」

期日 平成 17 年 10 月 27 日

会場 国文学研究資料館

共催 科学研究費補助金基盤研究(B)「アーカイブズ情報の集約と公開に関する研究」(研究代表者: 大友一雄、平成 15 年度～平成 17 年度)

後援 日本アーカイブズ学会

参加者 40 名

第1部 アジアにおける記録史料保存活動の歴史と現在

「韓国における記録史料の保存と公開」(李炅龍(国文学研究資料館外来研究員・韓国国家記録院))、「インドネシアにおける歴史情報の保存と公開」(前川佳遠理(国文学研究資料館アーカイブズ研究系))、「日本における記録史料の保存と公開」(山田哲好(国文学研究資料館アーカイブズ研究系))

第2部 日本における史料所蔵機関の現状と課題

「記録史料保存公開機関の現状」(大友一雄(国文学研究資料館アーカイブズ研究系))、「地域文書の保存と管理: 鶴岡市郷土資料館の場合」(今野章(鶴岡市郷土資料館))、「大分県における史料公開機関の現状と課題」(平井義人(大分県立歴史博物館))

(公開研究会)

公開研究集会「電子ネットワーク社会におけるアーカイブズ: 研究報告 2 題」

期日 平成 18 年 7 月 22 日

会場 学習院大学

共催 「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基盤構築に向けての研究」科研 (代表者: 高埜利彦、平成 15-18 年度)

参加者 26 名

「あいさつ」(大友一雄(国文学研究資料館アーカイブズ研究系教授・研究プロジェクト・リーダー: オーガナイザ))、「アーカイブズ・マネージメントからアーカイブズ・レコード・マネージメントへ」(青山英幸(駿河台大学講師・国文学研究資料館共同研究員))、「デモンストレーション」「日本におけるアーカイブズ総合目録のための提案: EAD-XML 検索システムと新「史料情報共有化データベース」の紹介」(五島敏芳(国文学研究資料館アーカイブズ研究系助手・科研研究会メタデータ研究班リーダー))、「ディスカッションとまとめ」

(シンポジウム)

「研究資料・研究機関のアーカイブズ共有の前提: 資料保存の経験・蓄積から資料情報共有へ」

日時: 平成 19 年 5 月 14 日

会場: 国文学研究資料館

共催: 総合研究大学院大学葉山高等研究センター共同研究「大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ」プロジェクト

参加者 32名

I. 旧・史料館ないし国文学研究資料館の歴史資料保存

「あいさつ」（大友一雄・平田光司）、「全体説明」（五島敏芳（国文学研究資料館アーカイブズ研究系））

II. 歴史資料保存の（歴史的）経験あるいは人文社会科学系の蓄積

「旧・史料館の事務・研究関係文書記録の整理と保存・公開」（高橋実（国文学研究資料館アーカイブズ研究系主幹））、「閲覧にあたって」（清水〔吉岡〕栄美子（国文学研究資料館管理部学術情報課専門職員））、「国立国語研究所の研究資料の保存の概要」（森本祥子（独立行政法人国立国語研究所情報資料部門資料整備グループ研究員））、「紹介・展望：地域研究資料の保存と情報共有」（原正一郎（京都大学地域研究統合情報センター教授））

III. 大学共同利用機関の研究資料・研究機関アーカイブズ保存の現状

核融合科学研究所アーカイブ室、高エネルギー加速器研究機構史料室、総研大葉山高等研究センター、分子科学研究所史料編纂室

IV. 情報共有のための具体的作業：EAD データ作成の手順・準備と工具

「議論とまとめ」

（公開研究会）

公開研究集会「研究記録のアーカイブズー研究過程の検証と新たな情報資源化のためにー」

期日 平成21年2月21日

会場 国文学研究資料館

共催 日本アーカイブズ学会

参加者 48名

「SSJ データアーカイブの現状と課題」（佐藤博樹（東京大学社会科学研究所教授））、「自然科学の研究記録のアーカイブ」（高岩義信（筑波技術大学教授））、「旧史料館レコーズの整理と公開について」（高橋実（国文学研究資料館アーカイブズ研究系主幹））

（公開研究会）

公開研究会「国際標準（ISAD(G)2nd / ISAAR(CPF) 2nd / ISDF）による組織構造体と機能構造体としてのフォンドの統一的把握ーアーカイブズ・レコード・マネージメントにおけるアーカイバル・コントロール構築のためにー」

期日 平成21年3月7日

会場 国文学研究資料館

参加者 27名

「国際標準の構成と構造ーISAD(G)2nd/ISAAR(CPF)2nd/ISDF を中心にー」（青山英幸）、「フォンドとシリーズの関係についてー北海道庁文書の編成と記述に携わった経験を振り返ってー」（青山英幸）、「レコード・マネージメントにおける国際標準の適用」（吉田千絵）

(公開研究会)

公開研究集会「アーカイブズ編成の理論と実践ー公文書館の現場からの提言ー」

期日 平成22年1月9日

会場 国文学研究資料館

後援 日本アーカイブズ学会

参加者 28名

「趣旨説明」(坂口貴弘)、「記録史料群の編成・構造化に関する理論から実践へー近代県庁文書群の目録編成を題材にー」(柴田知彰(秋田県公文書館))、「沖縄県公文書館における公文書編成について」(大城博光((財)沖縄県文化振興会))、「ディスカッション」

【研究会・資料調査】

年度毎に分けて日付順に研究会と資料調査を別々に記入して下さい。（研究打合せは記入しないこと。）

【平成〇〇年度】

（研究会）

期日、会場、発表者（報告者）とタイトル

（資料調査）

期日、調査先

◆ワークショップ

【平成17年度】

12月19日、五島敏芳・丸島和洋・村越一哲・安倍尚紀「既存アーカイブズ検索手段データのEAD/XML化 #1 研究機関アーカイブズのEAD/XML化」

3月17日、五島敏芳・村越一哲「既存アーカイブズ検索手段データのEAD/XML化#2 主として「郷土資料」「古文書」を対象に」

【平成18年度】

1月27～28日、五島敏芳・丸島和洋「記録史料目録電子データ作成講座」

2月27日、五島敏芳「EAD/XMLデータ編集の基礎#1 既存検索手段変換・新規データ作成・周辺情報」

3月27日、五島敏芳「記録史料目録電子データ作成」

【平成19年度】

5月14日、五島敏芳・高橋実・吉岡栄美子・森本祥子・原正一郎「研究資料・研究機関のアーカイブズ共有の前提：資料保存の経験・蓄積から資料情報共有へ」

3月12日、五島敏芳・丸島和洋・インフォコム・村越一哲「EAD/XMLデータ編集の選択肢：応用ソフトウェアとオンライン総合目録」

◆プロジェクト研究会

【平成17年度】

4月18日、馬場幸栄「慶應義塾大学稀観書コレクション資源化におけるXMLを利用した画像DBおよびテキストDBの事例」

1月5日、青山英幸「アーカイブズマネジメントシステムとアーカイブズデータ交換システムの構築について」

【平成18年度】

7月22日、「研究プロジェクトの今後の活動について」

2月28日、青山英幸「アーカイブズ・レコードマネジメントにおけるアーカイバル・コントロール」

坂口貴弘「アーカイブズ情報のためのメタデータ標準をめぐる動向」

【平成19年度】

10月27日、藤吉圭二「ネットワーク時代のアーカイブズアカウントビリティ確保の拠点として」
森本祥子「国語研究所におけるEAD導入の試み」

【平成20年度】

10月30日、五島敏芳「全国アーカイブズ総合目録のデータ構築技法」

3月6日、前川佳遠理「ISAAR-CPF（第2版）団体・人・家のための国際標準記録史料の典拠
レコード 第2版改訂に関して一翻訳と実例より」

安部尚紀「社会学によるアーカイブズ論のための基礎的考察ー概念としての情報」

【平成21年度】

3月7日、「研究成果刊行についての検討と討議」

◆館内研究会

【平成16年度】

1月20日、山崎圭・大友一雄「史料群構造の階層分析と目録編成」

【平成17年度】

5月19日、五島敏芳「目録データベース利用とEAD/XML化」

6月23日、丑木幸男・高橋実・安藤正人・大友一雄・山田哲好・青木睦・渡辺浩一・五島敏芳・
加藤聖文・前川佳遠理・五島敏芳「全国の記録史料所在調査の概要報告会」

7月26日、五島敏芳「XMLによるデータ活用の可能性：TEI-lite準拠電子文書での実践」
戸森麻衣子「史料目録第80集について」

11月15日、青木睦「『史料目録第81集・信濃国山田哲好庄左衛門家文書その3』について」

【平成18年度】

6月8日、五島敏芳「アーカイブズ関係DB検索システムについて」

12月25日、加藤聖文「役場文書の史料群構造ー鳥取・岡山・広島県諸村役場文書を事例にー」
青木 睦「信濃国山田哲好庄左衛門家文書の構造分析」

12月28日、渡辺浩一「記録史料群の伝来と史料群構造ー名古屋元材木町犬山屋神戸家文書を事
例にー」

2月22日、李昊龍「日本の記録管理制度に関する研究ー特に地方公文書館を中心に」

坂口貴弘「アーカイブズ情報のためのメタデータ標準をめぐる動向」

3月20日、大友一雄「江川文庫資料の整理とデジタル化」

戸森麻衣子「江川文庫文書の史料群構造について」

高橋伸拓「直轄県における旧代官所役人の任用についてー伊豆国菰山代官所を事例
ー」

【平成19年度】

4月24日、安澤秀一・五島敏芳・坂口貴弘「アーカイブズ情報関係英語文献の翻訳について」

5月10日、前川佳遠理・五島敏芳・坂口貴弘「アーカイブズ情報関係英語文献の用語集類の翻
訳について」

11月14日、高橋実「史料叢書10・藩の文書管理について」
安藤正人「史料目録第86集信濃国松代真田家文書目録その7について」
前川佳遠理「史料目録第87集信濃国松代真田家文書目録その8について」
12月4日、安澤秀一・五島敏芳・坂口貴弘「DACS翻訳検討会」

【平成20年度】

1月21日、高橋実「史料目録第88集信濃国松代真田家文書目録その9について」
山田哲好「史料目録第89集信濃国松代真田家文書その10について」
3月25日、久保田明子・榎本博「収蔵史料目録の「史料情報共有化データベース」遡及入力について」

【平成21年度】

5月13日、山田哲好「アーカイブズ学文献データベースの現状と今後の課題」
6月25日、青木 睦「日本実業史博物館コレクションデータベースについて」
大友一雄「収蔵記録史料データベース（画像）について」
7月9日、大友一雄「アーカイブズ関係データベースについての検討会」
9月3日、大友一雄「収蔵アーカイブズ情報データベースについての検討会」
12月16日、高橋 実「史料目録第90集信濃国松代真田家文書目録その11について」
青木 睦「史料目録第91集信濃国松代真田家文書目録その12について」